

＜今日の説教のポイント コリント書Ⅱ 6章14節-7章1節＞

1 新約聖書中の特殊箇所。聖書全体から読むことが求められる箇所。

この部分は明らかにその前後(6:13 以前、7:2 以後)の内容とは別で、新約聖書中の問題箇所の一つです。特に、ここに書かれていることだけから読み取ろうとすると、結局、自分が読んで思ったことで終わりかねないと思います。ではどうすればいいのでしょうか。

2 主旨は一見簡単。汚れたものから離れよ。しかしそれでいいの？

書かれていることは難しくないと 생각합니다。信仰者は信仰を持たない者とかかわってはならない(14-15)。旧約聖書の中で神様もこう言われている(16-18)。だから汚れず、清く、聖なる者となれ(7:1)。まとめるとうなるでしょう。正しそうですが、本当にそうでしょうか。

3 別の箇所でパウロはこうも語り、イエス様もこう語っておられる。

同じパウロが、信者でない夫と一緒に生活したいと思っているなら離縁してはいけないと語り(Ⅰコリント 7:13)、偶像に供えられた肉を偶像の神殿の食事の席で食べていいと語っています(同 8 章)。また、イエス様の弟子たちが仲間でない者が悪霊を追い出しているのを見て非難したら、イエス様はたしなめられました(マルコ 9:38 以下)。今日の箇所を文字通り理解して行ったらいい、ということでもないことが分かります。

4 聖なる者となるが先。清なる者となるは後。その意味は？

14-16 節で語られている、闇でなく光を愛し、不法でなく正義を重んじ、偶像より真の神様を、不信仰より信仰を重んじるのは当然のことであり、その姿勢を学ぶことは大事です。しかし、聖書の他の所でパウロが相手の人を裁くためではなくキリストに導くために、その人の今の信仰の理解度や置かれている状態をよく考えてあたっていることを考えないと、人を裁き、自分を人から分離する信仰者となります(ファリサイ人の原意)。パウロは確かに「聖なる者」となれと語っています(7:1)。しかし「聖なる者」であって「清なる者」ではありません。赦されない罪人の自分が神様から赦されて「神のもの」とされた(聖なるの原意)